

第3期大野市総合戦略（案）に係るパブリックコメントの結果について

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 案件名 第3期大野市総合戦略（案）
- (2) 募集期間 令和8年2月20日（金）から3月5日（木）までの14日間
- (3) 意見提出状況 提出意見：9件、提出者：1人、提出方法：書面一件・電子メール9件

2 意見の概要とその意見に対する市の考え方

No	意見の概要	回答（市の考え方）	修正箇所
1	大野市の化石の魅力をより観光客に触れていただける機会があるとよい。ホロッサは魅力的な場所である一方、まちなかにも化石について体験・学べる、情報に触れられるスポットがあると、地域の魅力向上につながるのではないかと。	<p>本市は、「まちなかエリア」、「六呂師高原周辺エリア」、「郊外エリア」とホロッサのある「和泉エリア」の4つの観光エリアに分け、各エリアの観光資源の磨き上げを行い、観光消費額の拡大や観光誘客に取り組んでいます。</p> <p>まちなかを起点に各エリアへ周遊が促進され観光消費額が増加するよう、引き続き、各エリアの魅力向上や情報発信の強化に努めていきます。まちなかでの化石に関する体験的な学びの機会は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	なし
2	星空マイスター講座をはじめ魅力的な講座が実施されていてよいものの、連続講座の場合、参加のハードルが高いとも感じられる。多くの方に自然環境や生物多様性	<p>星空マイスター講座は、一定の習熟度を求める内容であるため、連続講座として実施しています。自然環境や生物多様性に関する講座としては、川遊びや水生生物調査を中心とした自然体験イベント「自然ふれあい探検</p>	なし

	<p>への関心を持っていただけるよう、単発の講座やイベントなどがあると裾野が広がるのではないかと。</p>	<p>隊」、イトヨの保護活動を通じた学習活動、越前おおの水のがっこうでの水循環に関する講座など、テーマや参加対象を変えながら単発的な講座として実施しています。</p> <p>引き続き、より多くの方に興味や関心を持っていただけるよう、また、参加しやすい環境となるよう努めていきます。</p>	
3	<p>市内の宿泊施設に限られている一方、空き家が増えており、これらを有効に活用できないか。また、外国人観光客の受け入れを促進するため多言語対応への支援（補助制度や支援策）を考えられないか。</p>	<p>空き家をはじめとする地域資源を有効に活用していくことは、観光客の受入体制強化や創業支援の観点からも重要と考えます。市内では、空き家を改修して宿泊施設として活用されている例もあり、市は、事業者が行う宿泊施設整備に対して支援しています。</p> <p>インバウンド観光については、市内の訪日外国人観光客は少なく、事業者の受入意欲にも差があります。まずは、インバウンド観光の現状や基本的な考えをまとめた「大野市インバウンド観光コンセプト」を事業者に周知し、受け入れに向けた機運の醸成を図っていきます。また、主な観光施設に対し、多言語対応したタブレットの設置を検討していきます。</p>	なし
4	<p>移動制約者の不安を減らすため、比較的交通量が少ない大野市で、ライドシェアサービスの実証導入や自動運転技術の社会実装に向けた取組など先進的なチャレン</p>	<p>ライドシェアサービスの導入や自動運転技術の実証については、全国的にも注目されている取組ではあるものの、本市の交通需要や地域特性、昨年度に実施した日本版ライドシェアの実証事業の実績を踏まえると、現時</p>	なし

	<p>ジを行い、大野市の魅力やブランド力向上につなげてはどうか。</p>	<p>点での導入は時期尚早と考えます。</p> <p>人口減少や運転手不足により公共交通を取り巻く環境は厳しくなる見通しです。持続可能な移動手段の確保に向けて、まずはまちなか循環バスや乗合タクシー、一般のタクシーについて、より利用しやすくなるよう取り組むとともに、地域の実情に応じた公共交通の最適化を検討していくなど、適切に対応していきます。</p>	
5	<p>消防団について、社会人の参加が難しいように感じるため、活動要件や体制の見直しが求められているのではないかと。従来の枠にとらわれず、高校との連携や役割を限定した「サポート団員」の創設など、多様な関わり方のある制度設計も一案。若い世代が早い段階から地域防災に関わることで防災意識の向上、担い手の育成につながる可能性がある。</p>	<p>消防団活動は、災害時の出場や火災現場での消火活動など危険を伴う活動を含むことから、高校生が消防団員として活動することは難しいと考えます。</p> <p>令和5年1月に、消防団活動を補完する制度として「機能別消防団員」を設け、地域防災の担い手の確保や活動体制の充実に努めています。</p> <p>引き続き、若い世代や女性をはじめ、より多くの方が地域防災に関わりやすい環境づくりや消防団のあり方について検討を進め、持続可能な消防団体制の構築を目指していきます。</p>	なし
6	<p>自主防災組織等の担い手を確保するため、若年層への研修会を開催することは重要な取組だが、任意参加では限定的になるのではないかと。若い世代が地域活動に関わるためには、早い段階から地域との接点を作っていくことが大切と考える。例えば、中学校・高校と連携して、防災や防犯を学</p>	<p>学校では防災・防犯教育を実施しており、地域でも防災活動に取り組んでいます。また、総合防災訓練では学校等を避難所とし、地区に対して避難訓練への参加を呼び掛け、幅広い世代からの参加を促しています。</p> <p>自主防災組織等の担い手確保が課題となる中、若者と地域がつながりを持ち続ける工夫や仕組みづくりは重要な視点であり、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>	なし

	<p>び・体験するなど学校を通じた仕組みづくりを行う。研修会に加えて、教育機関との連携強化の視点も検討されてはどうか。</p>	<p>す。</p>	
7	<p>中学校や高校において金融教育が始まっているが、こうした学びを公開授業のようなかたちで広げ、世代を超えて共有できる機会があると効果的ではないか。</p> <p>また、消費者相談は困りごとが生じてから起こるため、日常の中で「知る」、「気付く」工夫が重要ではないか。イベント等で短時間で学べる講座や啓発コーナーなど、相談体制の充実に加え、日常の中での啓発の機会づくりを検討いただきたい。</p>	<p>中学校では、中学校学習指導要領に沿って、社会科公民的分野で、消費生活や市場経済、貨幣の役割、グローバル経済について、家庭科で、消費生活のしくみ、消費者の権利と責任について学んでいます。その中で、キャッシュレス決済や消費者被害など、起こりうる被害について具体的に考える学習を行っています。市消費生活センターが提供するパンフレットやサイトを活用した授業も行っており、引き続き、学校教育の中で取り組んでいきます。</p> <p>また、市内の高校と協力し、平成21年度から進学や就職により一人暮らしを始める前の高校生を対象として、消費生活の知識習得やトラブルの未然防止につながるよう、消費者教育講座を実施しています。</p> <p>消費者がトラブルを未然に防ぐためには、事前の備えが重要と考えており、周知や啓発の方法について検討していきます。</p>	なし
8	<p>子どもたちの学びの環境づくりを実現していくため、家庭・学校・地域・各種団体など、多様な世代や立場の人々が、堅苦しさなくつながることのできる土壌づく</p>	<p>毎年、生涯学習フォーラムを開催し、地域や学校、各種団体など多様な立場の方々が集まり、活動の発表や情報共有を行っています。</p> <p>また、青少年健全育成推進大会では、小学生による少</p>	なし

	<p>りが重要ではないか。一つの方法として、地域の「学び」についてざっくばらんに語り合う場を設けることも考えられる。「地域の学びを共に考える場」の設置について検討いただきたい。</p>	<p>年の主張や中高生によるパネルディスカッションを通して、学校・家庭・地域が一丸となって青少年に対する理解と関心を深め、世代間の連携により活力ある地域社会を築き、郷土を愛し豊かな創造性をもって地域活動に参画する青少年の育成を推進しています。</p> <p>ご提案の内容は、より気軽に語り合える場づくりと捉えています。いただいた意見を参考に、地域でこどもの成長を支える体験や学びの機会の提供について検討していきます。</p>	
9	<p>文化会館閉館後の方針として既存施設の補修とうかがっている。単に文化会館の箱を置き換えるという視点ではなく、文化が育つ学びの環境づくりを目的として、多目的に活用できる施設の再定義・再設定を行ってどうか。</p> <p>一案として、他県では、平日は保育園の体育館、夜間・週末はダンスや演劇の劇場として機能する可変空間としている。多目的・多世代で活用できる施設は、限られた予算の中でも文化活動の幅を広げ、市民にとって学びと創造の場を提供できると考える。</p>	<p>施設の有効活用や市民同士の新たな交流を生み出すという観点から、施設の多目的化や複合化は重要な視点と考えています。</p> <p>文化活動を継続し、さまざまな世代が学び合い、刺激を受けられる環境づくりは、地域の文化力を育む上で欠かせません。ご意見を参考とさせていただき、文化活動を行うための環境整備について検討していきます。</p>	なし